

令和8年度 菊類 防除基準

No.1

JA庄内たがわ

令和8年1月6日時点の農薬登録情報を基に作成

	ハモグリバエ類	マメハモグリバエ	アブラムシ類	ハダニ類	ナミハダニ	ミカンキイロ	アサミウマ類	オオタバコガ	ヨトウムシ類	カメムシ類	コR1AドC	薬剤の系統 (又は成分)	薬剤名	劇物	使用基準			薬剤特性					備考	
															希釈倍数 又は 使用量	水100ℓ 当り薬剤量	使用回数	速効性	浸透移行性	浸達性	接触毒	食毒		
☆ 殺 虫 剤			○			○					1A	カーバメート	ガゼット粒剤	劇	9kg/10a	—	3回以内	○	○	○	○	○	○	77 幼類は2g/株(但し18kg/10aまで)
		○	○				○	○			1B	有機リン	ジェイエ-ス水溶剤		1000倍	100g	5回以内	○	○	○	○	○	○	
			○								3A	ピレスロイド	アーデントフロアブル		2000倍	50ml	5回以内	○	×	×	○	○		
				○									テルスターフロアブル	劇	4000倍	25ml	3回以内	○	×	×	○	○		幼類は17kg/10aは2000倍
		○						○			4A	ネオニコチノイド	ダントツ水溶剤		2000倍	50g	4回以内	○	○	○	○	○		散布
		○											スタークル顆粒水溶剤		2000~3000倍	33~50g	5回以内	○	○	○	○	○		幼類 1kg/10a 1000~2000倍 1ℓ/m ² かん注、幼類 2000倍
								○					アドマイヤーフロアブル	劇	2000倍	50ml	5回以内	○	○	○	○	○		施設栽培
													アクタラ顆粒水溶剤		2000倍	100g	6回以内	○	○	○	○	○		幼類は17kg/10aは1000倍
								○					モスピラン顆粒水溶剤	劇	2000倍	50g	5回以内	○	○	○	○	○		
								○			4C	スルホキシイミン	トランスフォームフロアブル		2000倍	50ml	3回以内	○	○	○				
								○	○		5	スピノシン	ディアナSC		2500~5000倍	20~40ml	2回以内	○	○	○	○	○		
								○	○	○	6	マクロライド	アフアーム乳剤		1000倍	100ml	5回以内	○	×	○	○	○		
								○					アグリメック	劇	500倍	200ml	5回以内	○	×	○	○	○		
				○							9B	ピメトロジン	チェス顆粒水和剤		5000倍	20g	4回以内	×	○	○	×	○		
								○	○		13	ピロール	コテツフロアブル	劇	2000倍	50ml	2回以内	○	×	○	○	○		
	○									17	シロマジン	トリガード液剤		1000倍	100ml	4回以内	○	×	○	○	○			
	○						○			I:21A F:39	METI・ピラゾノリド	ハチハチ乳剤	劇	1000倍	100ml	4回以内	○	×	×	○	×			
							○	○		28	ジアミド	ヨーバルフロアブル		2500~5000倍	20~40ml	3回以内	○	×	×	×	○		殺虫忌避効果抜群、幼類は2500倍、ハチハチ効果有	
							○			29	フロニカミド	ウララ50DF		5,000~10,000倍	10~20ml	6回以内		○	○					
							○	○		30	イソキサゾリン	グレーシア乳剤		2000倍	50ml	2回以内	○	○	○	△	○		ハチハチ効果有	
								○		UN	ピリダリル	プレオフロアブル		1000倍	100ml	4回以内	○	×	×	○	○		ハチハチ効果有	
☆ 殺 虫 剤 (ダ ニ 剤)										10B	エトキサゾール	バロックフロアブル		2000倍	50ml	1回	×	×	×	○	○		(卵・幼虫に効果あり)	
										20B	アセキノシル	カネマイトフロアブル		1000~1500倍	66~100ml	1回	○	×	×	○	×		(卵・幼虫・成虫に効果あり)	
										20D	ピフェナゼート	マイトコーネフロアブル		1000倍	100ml	1回	○	×	×	○	○		開花前まで(幼虫・成虫に効果あり)	
										21A	METI	サンマイトフロアブル	劇	1000倍	100ml	2回以内	○	×	○	○	○		(卵・幼虫・成虫に効果あり)	
										25A	β-ケトニトリル誘導体	スターマイトフロアブル		2000倍	50ml	1回	○	×	×	○	○		(卵・幼虫・成虫に効果あり)	
										33	アシノナビル	ダニオーテフロアブル		2000倍	50ml	2回以内	○	×	×	○	○		(卵・幼虫・成虫に効果あり)	
										-	環状ジエン有機塩素	ペンタック水和剤		1000倍	100g	—	×	×	×	○	×			

令和8年度 菊類 防除基準

No.2

JA庄内たがわ

令和8年1月6日時点の農薬登録情報を基に作成

	白さび病	うどんこ病	褐斑病	黒斑病	斑点病	斑点細菌病	萎凋病	センチュウ	ネグサレ	センチュウ	センチュウ	コR1AドC	薬剤の系統 (又は成分)	薬剤名	劇物	使用基準			薬剤特性					備考		
																希釈倍数 又は 使用量	水100ℓ 当り薬剤量	使用回数								
☆ 殺 菌 剤								○	○	○		8B	クロルピクリン	クロピクフロー	劇	30ℓ/10a	1回									
								○	○		8B・8A	クロルピクリン・D-D	ソイリーン	劇	土壌かん注 要ガス抜き 20~30ℓ/10a	1回								半身萎凋病 30ℓ/10a		
								○		○	I:8F F:MO3 H:2	ダソメット	ガスタード微粒剤	劇	土壌混和 要ガス抜き 20~30kg/10a	1回										
		○									MO3	ジチオカーバメート	ジマンダイセンフロアブル		500~800倍	125~200ml	8回以内									
		○	○								MO5	クロロニトリル	ダコニール1000		1000倍	100ml	6回以内									
		○									3	トリアゾール	アンピルフロアブル		1000倍	100ml	7回以内									
		○											ラリー乳剤		3000倍	33ml	5回以内								薬害注意	
		○	○								7	ピラゾノリド	パレード20フロアブル		4000倍	25~50ml	3回以内									白さび病は2000~4000倍 褐斑病は2000倍
		○											カナメフロアブル	劇	4000~8000倍	12.5~25ml	3回以内									
		○									11	メトキシアクリレート	アミスター20フロアブル		2000倍	50ml	5回以内									
	○									オキシミノ酢酸			ストロビーフロアブル		2000~3000倍	33~50ml	3回以内								薬害注意	
										31	カルボン酸	スターナ水和剤		1,000倍	10g	5回以内										

☆ そ の 他 薬 剤	植物成長調整剤	矮化剤	ビーナイン顆粒水溶剤	500~5000倍	生育期	4回以内	節間の伸長抑制	散布量: 50~150ℓ/10a (切り花用・施設栽培)
					発蕾期~摘蕾期	2回以内	花首の伸長抑制	
			ジベレリン	ジベレリン液剤	25~100ppm	生育期	2回以内	開花促進・草丈伸長促進
	除草剤	エチレン	エスレル10	500~1000倍	摘蕾時または定植後1週間以内及び10~14日毎	3回以内	開花抑制	散布液量: 2~10ml/株
		オーキシシン	オキシベロン液剤	2倍	10秒さし穂基部浸漬	1回	さし木の発根促進及び発生根数の増加	
	展着剤	H:3	ベンズアミド	アグロマックス水和剤	希釈倍数200~400g/10a	1回	定植後雑草発生前、散布液量100ℓ/10a	
H:3		ジニトロアニリン	ゴーゴーサン乳剤	希釈倍数200~400ml/10a	1回	定植前(雑草発生前)、散布液量70~150ℓ/10a		
			アプローチBI	10ml/散布液10ℓ				
			ワイドコート	1~3.3ml/散布液10ℓ(3000~10000倍)				

※農薬を混用する際の順番は、『展着剤 → 乳剤 → フロアブル → 水和剤』です。展着剤は必ず最初に添加して下さい。

※殺ダニ剤は、混用しないで単品で使用して下さい。

※農薬は、乾かないと効果を発揮しません！乾くような時間・環境での散布又は乾きやすくなる機能性展着剤の使用をお願いします。

薬剤の特性

○ 浸透移行性	: 処理した農薬の成分が根から葉へ、下位葉から上位葉に移行したりする性質
○ 浸達性	: 農薬の成分が葉の表面から裏面に移行する性質
○ 接触毒	: 農薬の成分が対象害虫が触れることにより効果を発揮する
○ 食毒	: 農薬の成分を対象害虫が摂食することで効果を発揮する